レジメン名	Pembrolizumab+GEM+CDDP
診療科名	腫瘍内科
診療科責任者名	大山 優
適応がん種	治癒切除不能な胆道癌
保険適応外の使用	□有 ■無
1 [만사 표 []	■ 7 陰 ■ 从本

がん治療ワーキンググループ使用欄		
登録番号	Bil-9	
登録日·更新日	2024年6月25日	
削除日		
出典	Lancet 2023; 401: 1853-65	
入力者	船木 麻美	

投与順に記入(抗がん剤のみ)

投与順に記人(抗かん剤のみ)						
	1~8コース目					
	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ペムブロリズマブ(遺伝子組換え) (キイトルーダ点滴静注)	100mg	200mg/body	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分	day1
	生理食塩液	100mL *1				
No.2	シスプラチン (シスプラチン注)	10mg, 50mg	25mg/m^2	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	2時間	day1,8
	生理食塩液	500mL				
No.3	ゲムシタビン塩酸塩 (ゲムシタビン点滴静注用)	200mg, 1g	1000mg/m^2	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分	day1,8
	生理食塩液	100mL				

	9コース目	以降				
No.1	ペムブロリズマブ(遺伝子組換え) (キイトルーダ点滴静注)	100mg	200mg/body	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分	day1
	生理食塩液	100mL *1				
No.2	ゲムシタビン塩酸塩 (ゲムシタビン点滴静注用)	200mg, 1g	1000mg/m ²	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分	day1,8
	生理食塩液	100mL				

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	■短縮可能(3日) · □短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

<投与開始基準>

好中球数	≥1500 / µ L	
ヘモグロビン値	≧9.0 g/ dL	
血小板数	≧7.5万/μL	
総ビリルビン	≦1.5mg/dL	
AST	≦100 IU/L	
ALT	≦150 IU/L	
血清クレアチニン値	≦1.5mg/dL	
クレアチニンクリアランス	≧60mL/min	
非血液毒性	Grade1	

減量·中止基準

<500 / μ L	
<1000 / µ L	
かつ 腋窩温で38℃以上	
<2.5万 / μ L	
Grade3以上	

<gc療法の減量基準></gc療法の減量基準>			
	内容	ゲムシタビン	シスプラチン
好中球数減少	<1000 / μ L	75%dose	-
血小板数減少	<5万 / μ L	75%dose	-
	50 < Ccr ≤ 60mL/min		75%dose
腎機能障害	$40 \le Ccr \le 50mL/min$	-	50%dose
	Ccr < 40mL/min		投与延期
	Grade2	-	75%dose
			投与延期
末梢神経障害	Grade3	-	Grade2以下に回復し
			た後に減量して再開
	Grade4	_	投与中止

	Grade4 - 投与中止
催吐性リスク	高度(1~8コース目)、軽度(9コース目以降) 制吐療法は「がん化学療法における制吐療法の標準化」を参照する
前投薬	なし
支持療法(その他)	「シスプラチンとカルボプラチンのハイドレーションについて」を参照する(1~8コース目)
その他の注意事項	- 術後補助療法における有効性及び安全性は確立していない。 ・ンスプラチンは最大8コースまで ゲムシタビン ・放射線との同時併用は避ける ・ゲムシタビンによる血管痛がある場合5%プドウ糖への変更が可能 *1: 日局生理食塩液又は日局5%プドウ糖注射液の点滴パッグに注入し、最終濃度を1~10mg/mLとする。 ・インラインフィルター(02~5 µ m)を使用して投与。 【免疫チェックポイント阻害薬有害事象対応マニュアル】を参照